

3. 県営中山間地域総合整備事業（白鳥南地区）

（位置と経緯）

対象地は東かがわ市字東山に所在する。地形的には阿讚山脈から延びる尾根の先端部付近に位置し、東山川に隣接する扇状地となる。対象地南東隅には平成14年度に新規確認した埋蔵文化財包蔵地「薄森遺跡」、北西隅には天正年間の創建と伝えられる正行寺に隣接しており、後者に関連して対象地には江戸時代の銘を認める墓標の集積地を数箇所認める。対象地は県道引田清水線の南北で工事施工時期が異なり、作付け時期の問題もあり、試掘調査は平成15年5月19～22日と10月9・10日の2回に分けて実施した。

（調査結果）

想定される遺構面に切土が及ぶ範囲を対象として26本のトレンチを設定した。調査の結果、①・⑪・⑮・21トレンチで遺構を検出した。

①トレンチではピットを4基検出し、そのうちの3基は柵列ないし掘建柱建物を構成し、一部には炭化した柱材も認める。出土遺物は確認できず、正確な所属時期は不明であるが、①トレンチ溝から出土した土師質土器鍋から、中世後半期の所産と考えられる。⑪トレンチで検出した溝は近現代、⑮トレンチの溝は近世以降の所産と考えられる。また、21トレンチのピットも深度が極めて浅く、1基のみの検出であるため、集落が展開する可能性は極めて低い。

（まとめ）

「薄森遺跡」の北側に設定した①トレンチで確認した柵列ないし建物跡は、位置関係や埋土の特徴・所属時期から、「薄森遺跡」と同一の集落遺跡と判断できる。その範囲は隣接する②・⑤トレンチで遺構が確認できないことや地形的な条件から、①トレンチが所在する箇所とその南にある2筆の田に限られる。よって、周知の埋蔵文化財包蔵地「薄森遺跡」の範囲を第55図のように変更し、この範囲について事前の保護措置が必要となる。同遺跡の保護措置については、東讃土地改良事務所と協議を重ね、設計出来高の変更による盛土保存で合意した。



第54図 調査位置図（「三本松」）



写真66 ①トレンチ全景

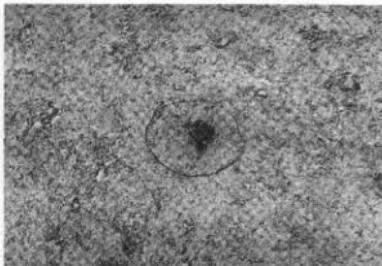


写真67 柱穴検出状況

番号	規模 (m)	遺構	遺物	地形・土層堆積状況
①	0.9×23.0 2.0×2.0	ピット4 溝1	土師質土器鍋(中世後半か)	「薄森遺跡」の隣接地。微高地。耕作土・床土直下に連続する水田層を認め、暗褐色混砂粘質土(包含層)を経て、基盤層である黄褐色シルト質土に至る。遺構の所属時期は不明であるが、ピットは直線的に並ぶ。
②	0.9×10.5	なし	なし	微高地。耕作土・床土直下に連続する水田層を認め、基盤層である黄褐色粘土に至る。
③	0.9×11.0	なし	なし	緩斜面地。耕作土・床土直下に造成土を認め、基盤層である黄色砂礫層に至る。
④	0.9×11.0	なし	なし	緩斜面地。耕作土・床土直下で基盤層に至る。
⑤	0.9×14.0	なし	なし	微高地。③トレンチと同様の基本層序。
⑥	0.9×15.0	なし	なし	微高地。③トレンチと同様の基本層序。
⑦	0.9×10.0	なし	なし	微高地。③トレンチと同様の基本層序。
⑧	0.9×15.0	なし	なし	微高地縁辺部。②トレンチと同様の基本層序。
⑨	0.9×13.0	なし	なし	緩斜面地。④トレンチと同様の基本層序。
⑩	0.9×10.0	なし	なし	緩斜面地。④トレンチと同様の基本層序。
⑪	0.9×12.2	ピット1 溝1	なし	浅い谷部。溝は幅約3.5m、深度0.8m以上を測り、埋土は拳大～人頭大の礫を多量に含む相互層で構成される。検出最深部からビニール袋を検出。
⑫	0.9×20.0	なし	なし	緩斜面地。耕作土・床土直下に黄灰色砂礫層に至る基本層序で、北側では一部造成土を認める。
⑬	0.9×13.5	なし	なし	緩斜面地。③トレンチと同様の基本層序。
⑭	0.9×10.4	なし	なし	緩斜面地。③トレンチと同様の基本層序。
⑮	0.9×15.0	溝1	なし	緩斜面地。基本層序は③トレンチと同様。溝は幅0.5m、深度0.1mを測る。
⑯	0.9×14.0	なし	なし	緩斜面地。③トレンチと同様の基本層序。
⑰	0.9×15.0	なし	なし	緩斜面地。③トレンチと同様の基本層序。
⑱	0.9×7.0	なし	なし	緩斜面地。塚が所在し、塚の裾部を中心的にトレンチを設定した。基本層序は③トレンチと同様で、耕作土が塚の裾部下に連続する状況が確認できるため、塚の形成時期は耕作土形成以降と理解できる。
⑲	0.9×10.5	なし	なし	緩斜面地。③トレンチと同様の基本層序。
⑳	1.2×10.0	なし	なし	基本層序は耕作土・床土直下に灰褐色粘質土を認め、基盤層である黄褐色粘質シルト質土に至る。
㉑	1.2×9.0	ピット1	なし	基本層序は耕作土・床土直下に灰褐色砂礫層を認め、基盤層に至る。ピット深度は0.05m。

第29表 各トレンチ概要 (1)

番号	規模 (m)	遺構	遺物	地形・土層堆積状況
㉒	1.2×13.0	なし	なし	基本層序は21トレンチと同様。
㉓	1.0×9.0	なし	なし	基本層序は21トレンチと同様。
㉔	1.0×10.0	なし	なし	基本層序は21トレンチと同様。
㉕	1.4×10.0	なし	なし	基本層序は21トレンチと同様。
㉖	1.4×9.0	なし	なし	基本層序は21トレンチと同様。

第30表 各トレンチの概要 (2)



第55図 トレンチ配置図 ($S = 1/5,000$)

4. 県営ため池等総合整備事業（北条池地区）

（位置と経緯）

調査地は綾歌郡綾南町陶に所在する北条池の北西部の汀線部分で、「北条池瓦窯跡」として周知されている埋蔵文化財包蔵地に隣接する。

今年度の試掘調査は、昨年度実施した護岸工事が東に延長されることになったため実施した。今回の護岸工事部分には近接して周知の埋蔵文化財包蔵地は所在しないが、事前の踏査で汀線際に古代の瓦片、窯壁片が集中する部分を4箇所確認した。

前回調査を実施した「北条池瓦窯跡」部分の汀線際にも同様に瓦片、窯壁片が確認できたことから、この4箇所についても上部に瓦窯跡の存在が予想されることから今回の試掘調査となった。

試掘調査は平成16年2月17日、19日に実施した。

（調査結果）

護岸工事で掘削する部分は護岸の基礎部分で、窯跡部分は3m以内の土盛りかあるいは現状のままで、工事によっての影響はない。基礎部分は汀線から約7~8mほど離れており、ちょうど窯跡の灰原に相当するものと考え、試掘調査を実施した。調査の結果、トレンチ全域で上部に暗黒灰色粘質土（ヘドロ）、砂層、砂混じりの粘質土等の堆積があり、その下部青灰色砂混じり粘質土が堆積する。近現代の瓦片・陶磁器片はこの全ての層から出土する。一方古代の瓦片は最下部に堆積する青灰色砂混じり粘質土から出土するが、近現代の遺物を共伴することから後世の堆積に混じり込んだものと考えられる。しかし古代の瓦片の出土位置は踏査段階で想定した瓦窯跡の周辺から出土しており、瓦窯からの転落したものが含まれているものと考える。しかし灰原等の窯跡関係の遺構は確認されず、今回の試掘調査結果から瓦窯跡の確定には至らなかった。

（まとめ）

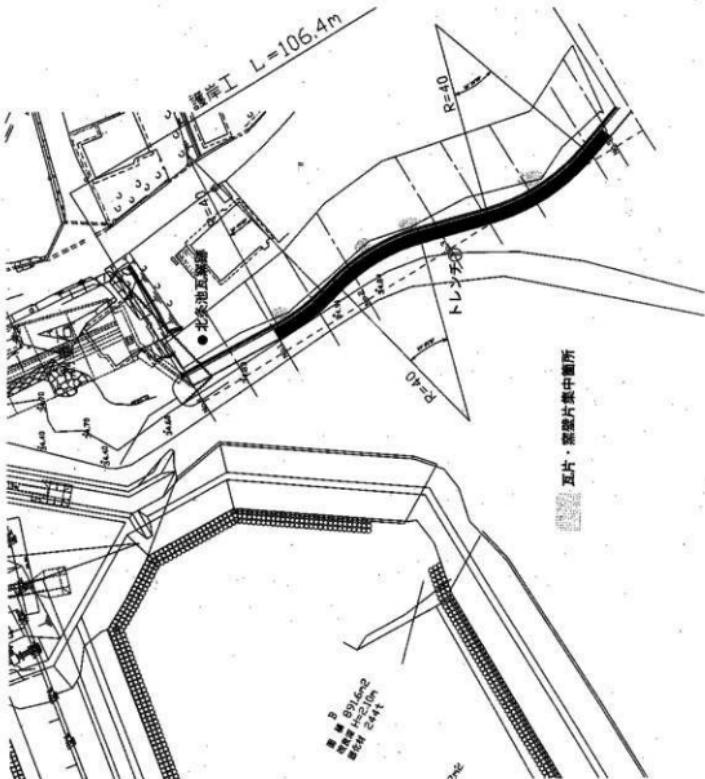
以上から今回の工事部分については埋蔵文化財に関する事前の保護措置は不要であると判断した。



第56図 調査位置図（「白峰山・「滝宮」）

番号	規模 (m)	遺構	遺物	地形・土層堆積状況
①	1.5×81.0 (121.5m ²)	なし	古代(12世紀)の瓦片 窯壁片近現代の瓦片 近現代の陶磁器片	トレンチ西部分では岸から池中央に向かって傾斜しており、暗黒灰色粘質土（ヘドロ約25cm）、やまとぶき灰色粘質土（20cm）、灰やまとぶき色砂混じり粘質土（14cm）、青灰色砂混じり粘質土（1~2mmの砂粒を多量に含む 18cm）、濁茶白黄色粘土層（地山）の層序となる。また、トレンチ東部分では南北方向の谷筋に当たり、青灰色砂層（0.5~3mmの砂粒、20cm）、淡青茶色シルト層（60cm）、青灰色シルト層（25cm）、青灰色砂層（30cm）、青緑色粘土層（地山）の層序となる。

第31表 各トレンチの概要



第57図 トレンチ配置図 ($S = 1/1,000$)



写真68 トレンチ全景



写真69 トレンチ西部



写真70 トレンチ西部土層拡大



写真71 トレンチ東部



写真72 トレンチ東部土層拡大



写真73 窟壁集中

5. 県営単独緊急農道事業（桑山地区）

(位置と経緯)

県営単独緊急農道（桑山地区）は七宝山塊東麓（扇状地）を南北に横断する路線である。周辺の丘陵には古墳時代後期の横穴式石室を埋葬施設とした下高野古墳群、包蔵地である宮の尾遺跡等が所在する。平成13年度に西讃土地改良事務所（当時は三豊土地改良事務所）と協議し、全線の分布調査を行い、試掘調査が必要な箇所の提示を行った。今年度はこれに基づき、試掘調査時期について協議を行い、用地取得後、上物（ビニールハウス）の撤去が完了した段階で試掘調査を実施した。調査は平成16年2月18日に実施した。

(調査結果)

調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。各トレンチでは0.2m前後の表土下に拳大の礫を多量に包含する軟弱な層位が厚く堆積し（0.4m前後、果樹園造成前の堆積土）、基盤層に至る。基盤層は黄褐色風化土ないし拳大の礫を多量に包含する黄色系粘質土となり、その上位において遺構は確認できない。遺物の出土も皆無であることから、今回の対象地については本来的に埋蔵文化財包蔵地は存在しなかったものと考えられる。

(まとめ)

以上の結果から、今回の対象地については、文化財保護法に基づく事前の保護措置は不要と判断できる。



第58図 調査位置図（「観音寺」）



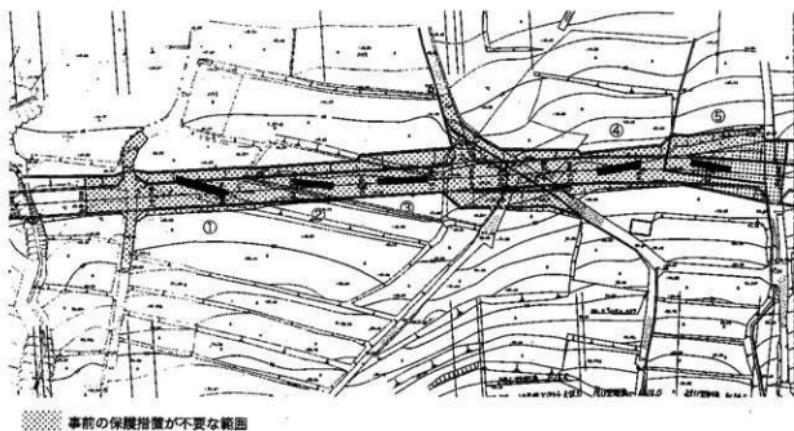
写真74 対象地全景



写真75 ③トレンチ全景

番号	規模 (m)	遺構	遺物	地形・土層堆積状況
①	1.3×8.0	なし	なし	基本層序は表土直下に黄褐色花崗土と濁灰色粘質土のラミナー堆積を認め、基盤層である黄褐色風化土に至る。
②	1.3×9.0	なし	なし	基本層序は①トレンチと同様。
③	1.0×10.0	なし	なし	基本層序は表土直下に暗黃褐色粘質土を認め、暗灰色粘質土を経て、基盤層である濁黄色粘質土に至る。基盤層には拳大の礫を一定量含む。
④	1.0×8.0	なし	なし	基本層序は表土下に暗黃褐色粘質土を認め、基盤層である濁黃灰色粘質土に至る。
⑤	1.3×11.0	なし	なし	基本層序は表土下に暗灰黃色粘質土を認め、基盤層である黄褐色粘質土に至る。黄褐色粘質土は拳大の礫を多量に包含し、深度0.6mを測る。

第32表 各トレンチの概要



第59図 トレンチ配置図 ($S = 1/1,000$)

ふりがな	まいぞうぶんかざいしつちょうさほうこく XIII
書名	埋蔵文化財試掘調査報告 XIII
副書名	香川県内遺跡発掘調査
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	片桐孝浩・松本和彦
発行機関名	香川県教育委員会
所在地	〒760-8582 香川県高松市天神前6番1号天神前分庁舎 電話 087-832-3784~3787
発行年月日	西暦2004年3月31日

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北 極	東 經	調査期間	調査 面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
生野原遺跡	善通寺市松木町	372048		34°13'22"	133°47'47"	2003.6.19~26	272	善通寺バイパス道路
高板元北岡遺跡 東坂元秋寄遺跡	綾歌郡高板町	373851		34°16'33" 34°16'14"	133°51'26" 133°51'18"	2004.2.2~6	144	国道438号
奥白方南原遺跡 奥白方中原遺跡	仲多度郡多度津町	374041		34°14'50" 34°14'46"	133°44'1" 133°43'48"	2003.6.3~4、 2004.2.9	88	多度津丸龜線 (奥白方工区)
庄八尺遺跡	仲多度郡多度津町	374041		34°15'33"	133°45'32"	2004.2.9~16	156	多度津丸龜線 (多度津工区)
津森位遺跡	丸亀市津森町	372021		34°16'43"	133°47'36"	2003.10.21、 12.9~15	148	多度津丸龜線 (丸亀工区)
大瀬城跡	仲多度郡溝瀬町	374024		34°10'55"	133°51'33"	2003.10.28~ 30	13	財田溝瀬線
川島本町遺跡 川島本町南遺跡	高松市川島本町	372013		34°16'24"	133°5'2"	2004.1.26~29	224	西植田高松線
国分台遺跡	綾歌郡国分寺町	373834		34°19'12"	133°56'17"	2003.11.12~ 21	9	自衛隊演習
阿佐松窯 山田下吉田遺跡	綾歌郡綾上町	373818		34°13'43" 34°13'45"	133°56'45" 133°56'31"	2003.5.6~12、 10.20~22	205	県営ほ場整備事業 (綾上山田地区)
桐野下遺跡 窯ノ口廻跡	綾歌郡綾南町	373826		34°14'50" 34°14'49"	133°57'20" 133°57'21"	2003.8.21、 9.1,10.23~27	296	経営体育成基盤整備事業 (綾南南部地区)
薄森遺跡	東かがわ市東山	373028		34°12'21"	133°20'51"	2003.5.19~22 2003.10.9~10	310	県営中山間地域総合整備事業 (白鳥南地区)

埋蔵文化財試掘調査報告 XIII

香川県内遺跡発掘調査

平成16年3月

編集・発行 香川県教育委員会

香川県高松市天神前6-1 香川県天神前分庁舎

電話 (087) 831-1111 (代表)

印 刷 株式会社 美巧社